

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～37
世 界 史	38～51	地 理	52～67
数 学	68～73		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

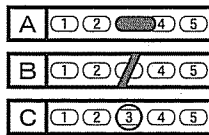
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。
6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(日 本 史)

〔I〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

7世紀半ばの倭は中央集権の確立と国内統一の必要にせまられていた。政権の中枢にあった蘇我入鹿は山背大兄王を滅ぼして権力集中をはかったものの、 1 を中心とする勢力が王族中心の政治体制の確立を目指して蘇我蝦夷・入鹿を滅ぼした。その後 2 が即位して孝徳天皇となり、 1 を皇太子とする新政権が成立し、大王宮を飛鳥から難波に移して政治改革を推進した。

646年に出された「改新の詔」には、中央集権化につながるさまざまな改革がうたわれている。

しかしながら国際情勢は以前にも増して厳しくなり、唐と新羅の連合軍は百済を滅ぼし、百済を支援しようとした斉明天皇の派遣した大軍も白村江で大敗した。その後は新羅が朝鮮半島を統一することとなった。倭では敗戦を受けて防衛政策を進め、各地に様々な防衛施設を設けるなどして守りを固めた。それと同時に豪族の領有民を確認するなど豪族層の編成も進められた。 1 は都を近江大津宮に移し、668年に正式に即位して天智天皇となった。

天智天皇が671年に亡くなると、翌年には天智天皇の子で近江朝廷を率いる 3 と、天智天皇の弟である 4 の間に皇位継承をめぐる争いが起こった。東国の豪族たちの動員に成功した 4 は 3 を破り、飛鳥浄御原宮で即位し、天武天皇となった。近江朝廷に与していた旧勢力を打倒した新政権は、強固な国家体制の形成に進んでいったのである。

問1 文中の空欄 1 ～ 4 にあてはまる人物の名としてもっとも適切なものを、以下のア～クのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------------|---------|---------|
| ア 押坂彦人大兄皇子 | イ 中大兄皇子 | ウ 穴穂部皇子 |
| エ 大津皇子 | オ 大海人皇子 | カ 草壁皇子 |
| キ 大友皇子 | ク 軽皇子 | |

問2 下線部 a に関連して、こうした状況の背景となった国際情勢についての記述として正しいものはどれか。以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 唐に敗れた高句麗が朝鮮半島を南下する政策をとり、それに対応した馬韓・辰韓と呼ばれた地域がそれぞれ百済・新羅として自立した。

イ 朝鮮半島南部の鉄資源をめぐり、唐と結んだ加耶諸国が倭と対立して断交状態になった。

ウ 唐が充実した国家体制を整え、高句麗に対して侵攻を開始したため、東アジアの緊張関係が高まった。

エ 倭は唐に対して高句麗の征討を強く主張したが、出兵の支援が得られなかったため、冊封体制から離脱した。

問3 下線部 b に関して、このとき左大臣、右大臣、内臣、国博士として新政権の要職を占めることとなった人物を、以下のア～クのなかから四人選んで解答欄の記号をマークせよ。

ア 高向玄理

イ 犬上御田歙

ウ 蘇我赤兄

エ 阿倍内麻呂

オ 中臣鎌足

カ 藤原不比等

キ 南淵請安

ク 蘇我倉山田石川麻呂

問4 下線部 c に関して、『日本書紀』所載の「改新の詔」に記された内容として誤っているものはどれか。以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 部曲や田荘などを廃止して、公地公民制への移行を打ち出した。

イ 地方の行政区画などを整備させることとした。

ウ 戸籍・計帳・班田収授の法を作成するよう命じた。

エ 旧来の田の調や戸別の調を廃止して、統一的な税制を導入しようとした。

日本史

問5 下線部 d に関して、斉明天皇についての記述として誤っているものはどれか。以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 弟である孝徳天皇の没後に飛鳥で即位した。
- イ 皇極天皇が重祚して斉明天皇となった。
- ウ 有間皇子の母である。
- エ 舒明天皇の皇后である。

問6 下線部 e に関して、このとき進めた防衛政策についての記述として誤っているものはどれか。以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 対馬・壱岐・筑紫に防人や烽をおき、新羅の侵攻に備えた。
- イ 水城は大宰府の北に設置された防禦のための長大な堤で、堀をもち水を引いてたたえた。
- ウ 大宰府の北方に大野城を、南方に基肄城を築いて、防衛拠点とした。
- エ 対馬から長門に至るまでの各地に朝鮮式山城が築かれた。

問7 下線部 f に関して、飛鳥浄御原宮についての記述として正しいものはどれか。以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥京跡)はこの宮の所在地の有力な候補とされている。
- イ この宮は持統天皇が岡本宮に遷都するまでの都である。
- ウ この宮において689年に飛鳥浄御原令が施行され、律は690年になってから施行された。
- エ この宮に遷都したのは673年で、天武天皇が即位したのは674年であった。

問8 以下の用語を60字以内で説明せよ。なお、句読点は1字分とし、算用数字は1マスに2文字記載してよい。

庚午年籍

下書き用(横書き, 20字×3行=60字)→

日本史

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

中世社会の成立と展開にともなって、時代に応じて特色ある文化が花開いたが、その担い手は次第に公家から武家や庶民へと移っていった。

院政期には、貴族が文化の中心にあったが、新たに台頭してきた武家や庶民もそれに影響を及ぼすようになった。文学では、後白河上皇が、民間の流行歌謡である今様を集めて『梁塵秘抄』を編纂した。また^a [1] に取材した『伴大納言絵巻』などの絵巻物も成立した。

宗教では、浄土教が、聖や上人などと呼ばれた民間の布教者によって全国に広がった。それにともなって、地方豪族によって各地に阿弥陀堂が建造され、^A [A] 国の中尊寺金色堂などが現存している。『法華経』に対する信仰も広がり、『法華経』などの写経を埋納する経塚が全国各地に造営された。^B [B] 国の厳島神社に寄進された『法華経』などの豪華な写経は、平氏一門の栄華を今に伝えている。^b

鎌倉時代になると、公家が伝統的な文化を受け継ぐ一方で、武家や庶民の支持を受けた新たな文化が生み出された。武家では、鎌倉幕府の歴史を編年体で記した『吾妻鏡』が編纂された。また、北条氏一門の金沢実時とその子孫は、和漢の書物を集めて、² [2] 国の六浦に金沢文庫を設けた。

建築では、中国から新様式の建築様式として禅宗様(唐様)が伝えられ、禅寺の建築に採用された。また、それまでの和様に新様式を取り入れた折衷様も生み出された。彫刻では、東大寺や³ [3] の復興事業が進められる^cにともなって、奈良仏師の運慶・⁴ [4] 父子らが、以前からの彫刻の伝統を受け継ぎつつ、力強い写実性などを特色とする作風を生み出した。書道では、⁵ [5] 天皇の皇子である尊円入道親王が、宋の書風を取り入れて青蓮院流を創始した。

室町時代になると、京都を中心として、公家文化と武家文化が一体化し、民衆も含めて幅広い基盤をもつ文化が生み出された。たとえば芸能では、猿楽・田楽のなかから能が発達していった。能は各地でさかんに興行され、³ [3] を本所とした観世座から出た観阿弥・世阿弥父子は、足利義満の保護を受けて活躍した。能のあいだに演じられるようになった風刺性の強い喜劇である狂言は、とく^d

に民衆にもてはやされた。また、幸若舞・古浄瑠璃・小歌などが庶民に愛好され、小歌の歌集として が編集された。一方、政治・経済面で力を失った公家は、おもに伝統的な文化の担い手となり、二条良基、一条兼良ら^eが多くの著作を残した。

問1 下線部 a の人物について述べた文として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 仏教を厚く信仰し、京都郊外の鳥羽に法勝寺などの大寺院を造営した。
- イ 父の白河上皇の死後に院政を始め、院の御所に北面の武士をおいて軍事力の増強をはかった。
- ウ 皇子の以仁王が、源頼光とともに平氏打倒の兵を挙げたのをきっかけに、内乱が広がった。
- エ 孫の後鳥羽上皇は、北条義時追討の兵を挙げたが、戦いに敗れて配流された。

問2 空欄 に入るもっとも適した語句を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 平将門の乱
- イ 藤原純友の乱
- ウ 応天門の変
- エ 安和の変

問3 空欄 に入るもっとも適した語句の組み合わせとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しい組み合わせがない場合には、オをマークせよ。

- ア A - 出羽 B - 安芸
- イ A - 出羽 B - 備後
- ウ A - 陸奥 B - 安芸
- エ A - 陸奥 B - 備後

日本史

問4 下線部 b に関連して、平清盛について述べた文として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 祖父の平忠正は、越後国で反乱をおこした源頼家の子義親を討った。
- イ 後白河上皇の信任を得て、洛東に蓮華王院を造営した。
- ウ 叔父の平忠盛は、瀬戸内海の高橋平定などで鳥羽上皇の信任を得た。
- エ 播磨国の大輪田泊を修築し、瀬戸内海航路の安全をはかった。

問5 空欄 に入るもっとも適した語句を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 加賀
- イ 能登
- ウ 相模
- エ 武蔵

問6 下線部 c の様式の建築として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 三十三間堂
- イ 観心寺金堂
- ウ 東大寺南大門
- エ 石山寺多宝塔

問7 空欄 に入るもっとも適した語句を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 西大寺
- イ 興福寺
- ウ 延暦寺
- エ 園城寺

問8 空欄 に入るもっとも適した人物を、以下のア～エのなかから一人を選び、その記号を解答欄にマークせよ。正しいものがない場合には、オをマークせよ。

- ア 湛慶
- イ 快慶
- ウ 定朝
- エ 成朝

日本史

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

蔦屋重三郎(1750～97)は、18世紀後半の江戸文化を語る際に、欠かせない人物である。□ A □ と名づけられた本屋を経営し、黄表紙や浮世絵などを数多く刊行したことで知られる。蔦重のもとで一年あまりを「食客」として過ごしたことのある曲亭馬琴は、つぎのように記している。「蔦重は風流もなく文字もなければ、世才人^Bに捷^{すく}れたりすれば、当時の諸才子に愛顧せられ、その資によりて刊行の冊子みな時好^あに称ひしかば、十余年の間に発跡して一、二を争う地本問屋になりぬ」(表記一部変更)。商才に長けていることは当然として、当代一流の文人たちの最^あ頂^あが、蔦重の活動を支えていたという。彼の事績をしばらく追ってみよう。

吉原に生まれた蔦重の最初の出版物は、遊女評判記の類いであった。しばらく吉原関係の出版が続いた後、富本浄瑠璃^{とみもと}関係の出版を手掛けている。黄表紙の出版を始めるのはこの後である。

黄表紙とは、文字通り黄色の表紙で、□ C □ のことをいう。蔦重の出版した黄表紙が、大田南畝に高く評価されたことで、彼との交流が始まる。南畝は一世を風靡した狂歌師で、天明期の狂歌壇は彼を中心に形成された。南畝というの^Dは号で、ほかに蜀山人、□ E □ などと称した。号は日常を離れて、別世界で活動するときの名前である。大田南畝とは、幕府の御家人大田^{ふかし}覃^{ふかし}のことであった。このころ活躍した黄表紙作家では、朋誠堂喜三二^{ほうせいどう きさんじ}や、『鸚鵡返文武^{おうむがえしぶんぶ}二道^{ふたみち}』を著した□ F □ も武士の出である。こうした事実を意外とする向きもあろう。さりながら文化の担い手に必要なことは、まずは才能であって、身分は問わないのである。

蔦重は地元吉原を中心に、こうした文人たちとの交わりを深くしてゆく。狂歌会にも、蔦唐丸の号で加わり、人脈をひろげ、集った文人たちの作品を次々と出版してゆく。店舗も日本橋にほど近い通油町^{とおりのあぶらちょう}へと移転した。しかしながら狂歌や黄表紙の流行も長くは続かなかった。寛政改革のはじまりである。

風俗統制の強まるなか、南畝は狂歌界から身を引く。書物にも厳しい目が光り、1791(寛政3)年に蔦重は、山東京伝作の洒落本『娼妓絹麗』『錦之裏』□ G □ 3作の出版を咎められ、身上半減の重過料の刑を受けた。ここに蔦重の活躍も幕

を下ろすかと思いきや、浮世絵出版はここから全盛を迎える。喜多川歌麿の代表作『 』や、謎の浮世絵師である東洲斎写楽の役者絵はいずれも蔦重のこの処罰後に出版されている。先述の馬琴や、後に『東海道中膝栗毛』を著す もこの頃に蔦重のもとに身を寄せている。

寛政改革は綱紀肅正を図り、文武の励行を求めた。松平定信の学問好きもあって、好学の風潮を生み出した。洒落本や黄表紙は下火となったが、かえって教訓書や心学関係の書物は活況を呈すこととなった。無論、蔦重はこうした本も出版している。1795(寛政7)年には伊勢松坂に国学者の を訪ねており、彼の著作も出版している。加えて、かねてより蔦重は『庭訓往来』や『女今川』『 』などの往来物を出版してもいた。手習いの教科書として、これらは常に一定の需要を見込める。蔦重の足場はなにも狂歌や黄表紙のみにあったわけではなかったのである。

蔦屋重三郎は、1797年5月6日、不帰の客となった。享年48。

問1 空欄 にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 芝蘭堂 イ 鈴屋 ウ 耕書堂 エ 古義堂 オ 含翠堂

問2 下線部Bの著作として、もっとも適切な書名を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 修紫田舎源氏 イ 東海道四谷怪談 ウ 雨月物語
エ 椿説弓張月 オ 義経千本桜

問3 空欄 にあてはまるもっとも適切な記述を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 遊里での通人の遊び方を指南した実用小説
イ 歴史上の出来事を題材として、義理人情の葛藤を描写した長編小説
ウ 町人社会に取材し、専ら心中と殺人をテーマにした短編小説
エ 洒落、滑稽、諷刺をおりませた大人向きの絵入り小説
オ 宮廷社会の男女の愛憎を、庶民の好奇の目でみた長編小説

日本史

問4 下線部Dに関して、南畝の詠んだ狂歌を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア めでたさも中ぐらいなりおらが春
- イ 雀の子そこのけそこのけお馬が通る
- ウ うき雲のまつこともなき身にしあれば 風の心に任すべらなり
- エ 道のべの木槿は馬にくはれけり
- オ 世わたりに春の野に出て若菜つむ わが衣手の雪も恥かし

問5 空欄 にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 朱楽菅江
- イ 宿屋飯盛
- ウ 智慧内子
- エ 四方赤良
- オ 鹿都部真顔

問6 空欄 にあてはまるもっとも適切な人物を、以下のア～オのなかから一人を選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 竹田出雲
- イ 柄井川柳
- ウ 恋川春町
- エ 近松半二
- オ 野呂元丈

問7 空欄 にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 仕懸文庫
- イ 江戸生艶気樺焼
- ウ 金々先生栄花夢
- エ 夢の代
- オ 弹琴美人

問8 空欄 にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 恋女房染分手綱
- イ 市川鰻蔵
- ウ 大谷鬼次の奴江戸兵衛
- エ 婦女人相十品
- オ 五常

問9 空欄 にあてはまるもっとも適切な人物を、以下のア～オのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 池大雅 イ 立川焉馬 ウ 十返舎一九
エ 与謝蕪村 オ 式亭三馬

問10 下線部 J にもっとも関係の深い人物を、以下のア～オのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 中沢道二 イ 高山彦九郎 ウ 蒲生君平
エ 安藤昌益 オ 三浦梅園

問11 空欄 にあてはまるもっとも適切な人物を、以下のア～オのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 平田篤胤 イ 本居宣長 ウ 契沖
エ 賀茂真淵 オ 上田秋成

問12 空欄 にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 冥途の飛脚 イ 葉隠 ウ 武家諸法度
エ 猿蓑 オ 新論

日本史

〔IV〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

明治政府のもと日本の産業は大きく発展した。岩倉使節団に副使として加わった は、^a 欧米近代国家の政治や産業の状況を視察して1873(明治6)年に帰国し、内務省が設置されると初代内務卿として殖産興業の推進に力を入れた。政府は、 農学校や 育種場、 種畜場などを設けて農業の近代化をはかった。工業部門では、1872(明治5)年に開設された富岡製糸場^bのほか、新町屑糸紡績所や千住製絨所などの官営模範工場が設営されて繊維産業の近代化を促した。

政府の財政的基礎を固めることは、政府主導の産業発展において重要となる。財政の安定化に向けて、政府は1873年に地租改正条例を公布し、地租改正を実施した。しかし、殖産興業のための財政支出や、不換紙幣の増刷^cに伴うインフレーションなどを背景に、政府は財政難におちいった。こうしたなか1881(明治14)年に松方正義が大蔵卿に就任し、財政政策にあたる。松方財政^dは一時的にデフレーションと不況を深刻化させたものの、銀本位制の確立により物価は安定し、1886～89(明治19～22)年には鉄道業や紡績業を中心に会社設立が盛んとなる。

紡績業では、手紡ぎやガラ紡による生産に代わり機械制生産が普及し、1897(明治30)年には ^e の輸出量が輸入量を上まわった。重工業部門では、官営八幡製鉄所が1901(明治34)年に の技術を導入して操業を開始した。日露戦争後には、民間重工業も政府の保護のもと発達しはじめた。

このような工業の発展に伴い工場労働者が増加し、労働運動^fが行われるようになる。政府は1900(明治33)年に治安警察法を公布して労働者の団結権や争議権を制限する一方で、1911(明治44)年には労働者保護法である工場法^gを制定した。

問1 下線部 a の岩倉使節団に関する説明として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 使節団は、1871(明治4)年に横浜より出港し、欧米12カ国を歴訪したのち帰国した。

イ 使節団には、山川捨松や津田梅子ら5名の女子を含む留学生も随行した。

ウ 使節団は、不平等条約改正の交渉をアメリカと行い、条約改正において具体的な成果をえた。

エ 使節団に随行した久米邦武は、見聞記録として『特命全権大使米欧回覧実記』を編纂した。

問2 空欄 にあてはまるもっとも適切な人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 大久保利通

イ 木戸孝允

ウ 西郷隆盛

エ 板垣退助

問3 空欄 に入る地名の組み合わせとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1 - 札幌 2 - 下総 3 - 駒場

イ 1 - 三田 2 - 下総 3 - 駒場

ウ 1 - 下総 2 - 駒場 3 - 三田

エ 1 - 駒場 2 - 三田 3 - 下総

問4 下線部 b に関して、富岡製糸場に関わる記録である『富岡日記』の作者名を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 横田(和田)英

イ 細井和喜蔵

ウ 横山源之助

エ 山本茂実

日本史

問5 下線部 c に関して、地租改正およびこれに関わる出来事の説明として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 地租改正条例公布の前年に政府は田畑永代売買の禁令をとり、原則として従来の年貢負担者に地券を交付した。
- イ 地租改正により、課税対象を収穫高から地価に変更し、物納を金納にあらため、地券所有者を納税者とした。
- ウ 地租改正事業の過程で、所有権が不明確な山林・原野などの入会地は、主として村落の農民に分配された。
- エ 各地で地租改正反対一揆がおき、政府は1877(明治10)年に地租の税率を地価の2.5%に引き下げた。

問6 下線部 d の松方財政に関する説明として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 増税を行う一方、軍事費をのぞいて徹底的な緊縮財政を行った。
- イ 官営工場を払い下げの方針を決め、工場払下げ概則を公布した。
- ウ 国立銀行条例を改正し、銀行券発行権を国立銀行からとりあげた。
- エ 中央銀行として日本銀行を設立し、銀兌換の銀行券を発行させた。

問7 下線部 e に関して、ガラ紡を発明した人物を、以下のア～エのなかから一人を選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア リチャード＝アークライト
- イ 池貝庄太郎
- ウ 臥雲辰致
- エ 豊田佐吉

問8 空欄 B にあてはまるもっとも適切な品名を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 綿糸
- イ 綿布
- ウ 生糸
- エ 絹布

問9 空欄 にあてはまるもっとも適切な国名を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フランス イ ドイツ ウ アメリカ エ イギリス

問10 下線部 f に関して、1897(明治30)年に労働組合期成会を結成した人物を、以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 幸徳秋水 イ 高野岩三郎 ウ 鈴木文治 エ 片山潜

問11 下線部 g に関して、1911(明治44)年制定時の工場法に関する説明として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 原則として常時15名以上を使用する工場と、事業の性質が危険または衛生上有害なおそれのある工場に適用された。

イ 15歳未満の者および女性に午前0時から午前5時までの時間帯に就労させることを原則として禁止した。

ウ 15歳未満の者および女性に1日12時間を超えて就労させることを原則として禁止した。

エ 12歳未満の者に就労させることを原則として禁止した。